



「俺を殺してくれよ！  
生きてるのが辛いんだ  
よ！」

流し台の前に立つ私の  
隣には息子が立っ  
ている。首には包丁の刃が皮  
膚にめり込んでいて、包  
丁を首から離したらしっ  
かりと跡が付いているだ  
ろう。切れてはいないも  
の、少しでも動かそう  
ものなら血が噴き出して  
きそうだった。凍りつく  
ような緊張感の中、私は  
息子から離れた。

「あなたが死んでしまっ  
たらお母さんは悲しいけ  
れど、どうしても死にた  
いというのならお母さん  
は止めません。」

いざとなったら救急車  
を呼べばいい。そう思っ  
ていた。

包丁を首に当てる事は

それまでも何度もある  
た。その度に止めてき  
た。祖母が宥めたこと  
も、父親が諭し、力ず  
くで包丁を取り上げた  
こともあった。家族の誰  
もが息子に死んでほしく  
ない事を伝えた。息子の  
存在を大切に思っている  
ことも、命の尊さも。で  
も、その日はいつになく  
刃が皮膚にめり込んでい

た。今までの事もあり、  
これ以上繰り返したら  
人格障害になってしまう  
のではと思った。私も必  
死の覚悟だった。

## 「俺は死にたくない」 ・・・そう言って息子は包丁を流しの上に置いた

ニケーションの苦手さ  
(言葉の使い方や表  
現)をみると高機能自  
閉症に近いと思われる  
が、予期不安が強く多  
少ではあっても共感性に  
成長がみられるところ  
は高機能自閉症というよ  
りアスペルガー症候群  
なタイプではないかと思  
っている。

刃が皮膚にめり込んでい

た。今までの事もあり、

これ以上繰り返したら

人格障害になってしまう  
のではと思った。私も必  
死の覚悟だった。

私の息子は発達障  
碍だ。言葉を使ったコミュ  
ケーションの苦手さ  
(言葉の使い方や表  
現)をみると高機能自  
閉症に近いと思われ  
るが、予期不安が強く  
多量ではあっても共  
感性に成長がみられ  
るところは高機能自  
閉症というよりア  
スペルガー症候群  
なタイプではないか  
かと思っている。

いざとなら救急車  
を呼べばいい。そう  
思っていた。

包丁を首に当てる

した。息子は感覚が人  
より過敏だった。そのせ  
いもあって小さい頃から  
痲癩を起し易かった。小  
生の頃からかわれたこ  
とで人に対する信頼感  
を失い、自分に対する肯  
定感もなくなっていた。  
到底落ち着いて学校に  
通える状態ではなかつ  
た。家で過ごす時間が多  
くなった息子は、フラッ  
シユバックを起し、まくし  
てるように激しく怒りを  
ぶつけてくる。でも息子  
に寄り添い、気持ちに  
ピツタリの言葉を返すこ  
とができる。それが、  
「そうだよ。わかる？」と  
言葉が返ってくる。それ  
までの激しさがなくなり、  
穏やかな口調になってゆ  
く。息子は落ち着いて部  
屋に戻って行った。共感

しかしいつの間にかそ  
れだけでは息子の気持ち  
が済まなくなってきた。  
自分の部屋に籠り、自分  
の意志だけではどうする  
こともできない自分に、

刃が皮膚にめり込んでい

た。今までの事もあり、

これ以上繰り返したら

人格障害になってしまう  
のではと思った。私も必  
死の覚悟だった。

私の息子は発達障  
碍だ。言葉を使ったコミュ  
ケーションの苦手さ  
(言葉の使い方や表  
現)をみると高機能自  
閉症に近いと思われ  
るが、予期不安が強く  
多量ではあっても共  
感性に成長がみられ  
るところは高機能自  
閉症というよりア  
スペルガー症候群  
なタイプではないか  
かと思っている。

いざとなら救急車  
を呼べばいい。そう  
思っていた。

包丁を首に当てる

れると話し手の気持ちに  
大きな変化が起きること  
を目の当たりにした。こ  
の時傾聴の凄さを知っ  
た。

傾聴を学び始めて5年  
が経っていた。渡邊先生  
から聞いた経験談や学  
んだことを役立て、全  
て使い果たしてしまっ  
たような感じだった。でも、  
それから二度と包丁を手

刃が皮膚にめり込んでい

た。今までの事もあり、

これ以上繰り返したら

人格障害になってしまう  
のではと思った。私も必  
死の覚悟だった。

私の息子は発達障  
碍だ。言葉を使ったコミュ  
ケーションの苦手さ  
(言葉の使い方や表  
現)をみると高機能自  
閉症に近いと思われ  
るが、予期不安が強く  
多量ではあっても共  
感性に成長がみられ  
るところは高機能自  
閉症というよりア  
スペルガー症候群  
なタイプではないか  
かと思っている。

いざとなら救急車  
を呼べばいい。そう  
思っていた。

包丁を首に当てる

なふうでしか居られない  
自分が、みじめで情けな  
くて生きている資格さえ  
ないと思うようになって  
いた。努力しようにもそ  
れすらできない自分など  
認められるはずもなかつ  
た。壁に出来た無数の穴  
は、まるで息子の心の傷  
跡のようだ。

傾聴を学び始めて5年  
が経っていた。渡邊先生  
から聞いた経験談や学  
んだことを役立て、全  
て使い果たしてしまっ  
たような感じだった。でも、  
それから二度と包丁を手

刃が皮膚にめり込んでい

た。今までの事もあり、

これ以上繰り返したら

人格障害になってしまう  
のではと思った。私も必  
死の覚悟だった。

私の息子は発達障  
碍だ。言葉を使ったコミュ  
ケーションの苦手さ  
(言葉の使い方や表  
現)をみると高機能自  
閉症に近いと思われ  
るが、予期不安が強く  
多量ではあっても共  
感性に成長がみられ  
るところは高機能自  
閉症というよりア  
スペルガー症候群  
なタイプではないか  
かと思っている。

いざとなら救急車  
を呼べばいい。そう  
思っていた。

包丁を首に当てる

にすることがないのは、  
息子自身が自ら『死にた  
くない』という気持ちに  
気付いたからなのではと  
思っている。息子が料理  
をするために包丁を持っ  
ても不安を感じないの  
は、息子自身が死にたく  
ないと思っていることを  
家族が信じていられるか  
らだ。

傾聴を学び始めて5年  
が経っていた。渡邊先生  
から聞いた経験談や学  
んだことを役立て、全  
て使い果たしてしまっ  
たような感じだった。でも、  
それから二度と包丁を手

刃が皮膚にめり込んでい

た。今までの事もあり、

これ以上繰り返したら

人格障害になってしまう  
のではと思った。私も必  
死の覚悟だった。

私の息子は発達障  
碍だ。言葉を使ったコミュ  
ケーションの苦手さ  
(言葉の使い方や表  
現)をみると高機能自  
閉症に近いと思われ  
るが、予期不安が強く  
多量ではあっても共  
感性に成長がみられ  
るところは高機能自  
閉症というよりア  
スペルガー症候群  
なタイプではないか  
かと思っている。

いざとなら救急車  
を呼べばいい。そう  
思っていた。

包丁を首に当てる

